

自立活動実践事例集



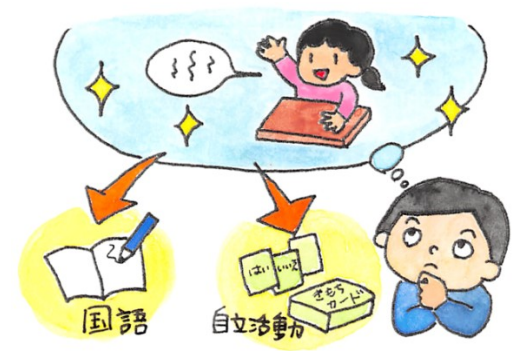
茨城県教育研修センター特別支援教育課

目次

学習活動に進んで取り組まない A 子（小 2：LD,ADHD 通級指導教室）	1
学習からの逃避傾向が強い B 男（小 3：LD,ADHD 通級指導教室）	5
苦手なことに取り組もうとしない C 子（小 3：LD,ADHD 通級指導教室）	9
学習参加への意欲がもてない D 男（小 5：LD,ADHD 通級指導教室）	13
課題に取り組むことが難しい E 男（小 1：知的障害特別支援学級）	17
聞きもらしがあり活動にのれない F 子（小 3：知的障害特別支援学級）	21
正しい姿勢の保持が難しい G 男（小 3：自閉症・情緒障害特別支援学級）	25
参加することが難しい H 男（小 5：自閉症・情緒障害特別支援学級）	29
授業に集中して取り組むことが難しい I 男（中 1：知的障害特別支援学級）	33
自分の思いや考えを伝えることが難しい J 子（中 2：知的障害特別支援学級）	41
集団活動や行事に参加することが難しい K 男（中 2：自閉症・情緒障害特別支援学級）	45
友達との関わりが難しい L 男（中 1：自閉症・情緒障害特別支援学級）	49
手立て集	54



実践事例



学習活動に進んで取り組まないA子（小2：LD,ADHD 通級指導教室）

実態把握

- ・ 通常の学級に在籍。週3時間通級指導教室に通って学習。
- 【通級指導担当者の見取り】
- a. 行動が全体的に雑で、多くの場面で適当に済ませてしまう。（例えば、その気になれば丁寧な字を書けるが、普段のノートの子は雑。など）
 - b. 1年生で学習する計算はできる。
 - c. 過去に経験したことややり慣れたことについては、手順通りに上手にこなせることが多い。

【通常の学級の担任からの情報】

- d. 授業の自力解決場面では、自分で考えることをせず、隣の友達のノートを写して済ます。
- e. 話は大好きで上手。しかし、言いたいことだけを一方的に言ってしまう。そのため、特に同性の友達からよく思われていない。
- f. 教師の指示をよく聞き漏らす。授業中は、よそ見をしたり手遊びをしたりして、教師の話に注意を向けることが難しい。一斉指示場面では、友達の行動を見てワンテンポ遅れて行動し始めることが多い。
- g. 時折思い込みで行動してしまい、周囲とずれた行動をしてしまう。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	c, d	e	a, b, g		f
【1年後の姿】 必要な情報を正しく受け取り、自分で判断して次の行動に移ることができるようにする。 成功体験を積み重ね、学習や生活に対する意欲や自信を向上できるようにする。					

指導すべき課題

学習に自分から進んで取り組もうとしないという傾向が、学習のあらゆる場面及び本児の成長に大きな影響を与えていると考え、中心的な課題とした。その背景には、聞く力の弱さからくる教師の話を理解する困難さや、それに伴う学習内容の理解に対する自信の無さがあると推測される。そのため、通級指導教室においては、聞く力の向上や、自信をもって学習に取り組めるよう学習内容の見通しをもつ活動に取り組めるようにする。

長期目標

教師の話をよく聞いて、自分から進んで学習に取り組むことができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ	心理的な安定	環境の把握		
	(2)状況の理解と変化への対応 場面に応じた行動の定着 (3)困難の改善・克服する意欲 学習に前向きに取り組もうとする力の育成	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応 聞くことに対する意識の向上 聞いたことを覚える力の向上		
指導内容	教師の口頭での話の内容を正確に聞き取り、自らそれに応じた行動をする。		通常の学級における学習内容の簡単な予習や教師による事前予告から、見通しをもつ。	

短期目標 (自立活動)	・教師からの3つの口頭指示で、その通りに行動することができる。【心(3),環(2)】 ・教師が話した3文の話を聞き取って、その内容通りの絵を描くことができる。【心(3),環(2)】	・通常の学級で学習する内容の予習・予告をすることで、予備的知識や学習内容の見通しをもつことができる。【心(2)】	個別目標 (各教科等) ・算数の自力解決場面で、自分の考えを独力でノートに書き始める回数を増やすことができる。
指導の手立て (自立活動)	・目的意識をもって学習に取り組めるよう、「先生の話聞き漏らしてしまうことが多いから聞くことを頑張ろう」という目標を児童と繰り返し確認する。 ・教師の指示を聞いて行動する学習については、「他の教員へのおつかいを頼む」という活動を設定する。これにより、緊張感をもちながらも楽しんで学習に取り組めるようにする。おつかいの内容は、徐々に難易度を上げていき（例えば、数を入れたり時間を入れたりする）、細かい部分まで聞き取ろうという意識を少しずつ高めていけるようにする。 ・おつかいができたときは大いに称賛し、学習への意欲を高められるようにする。 ・話を聞き取って絵を描く学習では、話の内容を少しずつ複雑にしていきながら、細かい部分まで聞き取ろうという意識を少しずつ高めていけるようにする。	・事前の予習場面では、内容の理解よりも手順の理解を優先して指導する。	指導の手立て (各教科等) ・独力で書き始めたときには、内容の如何に関わらず自分から考え書き始めたことをすぐに賞賛。 ・座席位置を教室前方の声のかけやすい位置へ。 ・すべきことの手順を箇条書きで明確に。(授業UD化) ・児童本人と担任と「がんばること」として目標共有。
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)		指導の実践
評価	<通常の学級での様子> 実践開始前 実践開始後 0回/10回 5回/10回 (通級担当者の観察による) ・[算数]自力解決場面で独力で考えをノートに書き始めようとした回数 ・算数以外の授業場面でも能動的に話を聞いたり考えたりしている姿が多くなってきた。 ・国語の聞き取りテストで、満点が取れた（満点は5人/30人のみ）。 ・通常の学級の担任は「自分で考える習慣が身に付いてきている。早とちりすることもあるが、落ち着いて話を聞けることが多くなった。」と評価。 <自立活動の様子> ・[おつかい学習]8人の教員へおつかいを頼む学習をした。意欲があり、指示をしっかり身を乗り出して聞いていた。学習を繰り返すうちに大事な言葉や数字を繰り返しつぶやくなどの忘れない工夫をするようになった。 ・[お絵描き学習]指を折りながら先生の話の聞いたり、キーワードを復唱したりするなど、忘れない工夫をするようになった。		
次計画へ反映	・伸びてきている聞く力を生かして基礎学力の向上を目指す取組を行う。		

1 題材名 しっかりきこう

2 題材の個別目標

- ・聞いた情報を適切に処理し、その情報に応じた行動ができる。【心(3)、環(2)】

3 指導計画

45 分間の配分の目安	学習内容・活動
15 分間	・おつかいゲーム
20 分間	(教科の内容を取り扱った自立活動)
10 分間	・お絵描きゲーム、もしくは、聞き取りワークシート

4 本時の個別目標

- ・先生の言う3つの指示を正確に聞き取り、指示通りのおつかいをすることができる。【心(3)、環(2)】
- ・先生の言う3文の内容を正確に聞き取り、内容通りの絵を描くことができる。【心(3)、環(2)】

5 準備物・資料 おつかいで届けるもの（ハンカチ）、お絵描きゲームの用紙、ワークシート

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
1 はじめのあいさつをする。	・姿勢を正しくしていることや、元気に挨拶ができることを賞賛する。
2 本時の活動を知る。 ・おつかいゲーム ・ビーバーの大工事 ・お絵描きゲーム	・学習内容を黒板に示すことで、学習の見通しがもてるようにする。 ・おつかいゲームでは、職員室におつかいに行くことを知らせ、学習の意欲を高める。 ・本時のゲームや学習は、話をよく聞いて頭に入れることが大切であることを確認する。



3 おつかいゲームをする。

(1)めあてをつかむ。

㊦ よく聞いて最後まで取り組もう。

(2)3つ指示を聞く。

<職員室の生徒指導主事へのおつかい>

- ①明日は2時間目に国語があります。(連絡)
- ②ハンカチが落ちていたので届けます。
- ③掃除の後に昨日お願いしていた本を3冊借りに来るので貸してください。

(3)おつかいにいく。

(4)指導者の教師におつかいの報告をする。

(4 国語の内容を取り扱った自立活動)

5 3文の内容の絵を描く。

6 本時の学習を振り返る。

・感想を発表する。

7 おわりのあいさつをする。

・おつかいの結果や生徒指導主事の返答を教師に伝わるように報告する。なるべく自分で思い出しながら言えるよう補助発問は少なくする。

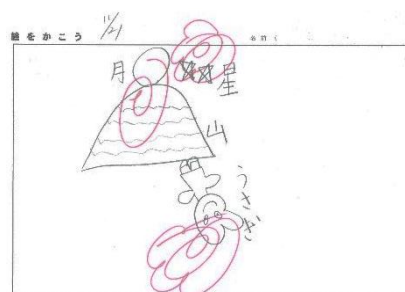
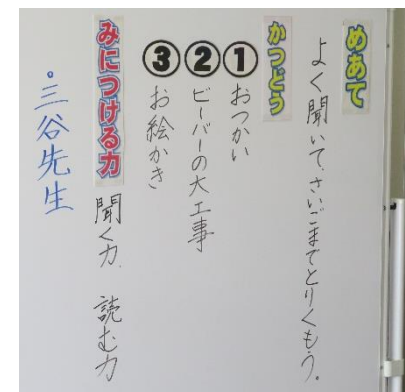
◎先生の言う3つの指示を正確に聞き取り、指示通りのおつかいをしている。【心(3)、環(2)】

・様子が分かるように、簡単に描くことを確認する。

・教師に注意が向いていることを確認してから、絵に描く内容を話す。

◎先生の言う3文の内容を正確に聞き取り、内容通りの絵を描いている。【心(3)、環(2)】

・学習の良かったところ、特に聞くことに関する工夫や努力を認め、賞賛する。



学習からの逃避傾向が強いB男（小3：LD,ADHD 通級指導教室）

・通常の学級に在籍。週4時間通級指導教室に通って学習をしている。

【特別支援学級担任の見取り】

- a. 学習のはじめの時に「今日はどこまでやるの？」と“学習の終わり”を気にする言動が目立つ。
- b. 計算のような手順の明確な学習は得意。また、本児にとって難易度が高い学習でも、見通しやゴールを把握することができればスムーズに取り組めることも多い。

【通常の学級の担任からの情報】

- c. 漢字ドリル学習の宿題には取り組まない。ただし、宿題がプリントで出された時は取り組む。
- d. 本児にとって難易度の高い学習に対しては「え～、できない」「いやだ～」と逃避することが多い。
- e. リコーダーが特に苦手で、音楽の時間には専ら分解して遊んでいる。
- f. 少し乱暴だったり衝動的だったり落ち着きにかける面があり、友達に注意された時には手を出してしまうなど、友達との小さなトラブルが多い。一方で、やさしくて思いやりがある行動を見せることもある。

実態把握

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	a, d	f	b, c	e	
【1年後の姿】 自分の特性を理解し、苦手なことへの方策を自分で考えて学習や活動に取り組むことができる。					

指導すべき課題

本児にとって難易度の高い学習に対する逃避が多いことが、学習のあらゆる場面及び本児の成長に大きな影響を与えていると考え、中心的な課題とした。一方で、学習のゴールや見通しを本児が明確に把握することができれば、学習に取り組めることが多いことから、将来的には、本人がそうした特性を自覚し、自分で学習内容や環境を工夫できるようにする。

長期目標

自分の特性を理解し、ゴールが見えるように自分なりに工夫したり助言を受けたりしながら、これまで逃避していたような学習にも取り組むことができるようになる。

自立活動指導内容

項目リストアップ	心理的な安定	環境の把握		
	(3)困難の改善・克服する意欲に関すること 学習成果実感による苦手な学習への前向きな気持ちの育成	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること 学びやすさに関する自己の特性理解		
指導内容	通級指導教室で、自己の特性に応じた方法で学習に取り組み上達を実感することで、苦手なことにも取り組んでみようという前向きな気持ちをもつ。		時間や範囲を区切れば（ゴールが明確ならば）苦手な課題にも取り組みやすくなるという自己の特性を理解する。	

短期目標 (自立活動)	・時間や練習範囲を区切りながら、苦手なリコーダーの練習に5分間継続して自ら進んで取り組むことができる。【心(3), 環(2)】	・生活の中で自分の気持ちのよりどころとして活用できるよう、時間や範囲を区切れば（ゴールが明確ならば）苦手な課題にも取り組みやすくなるという趣旨のキャッチフレーズをつくることができる。【心(3), 環(2)】	個別目標 (各教科等)	・漢字の宿題に5回連続で取り組むことができる。
指導の手立て (自立活動)	・リコーダーの練習は、時間と練習範囲を明確に区切って（終わりを明確にして）苦手であっても取り組みやすいようにする。 ・上達の様子を具体的に認めることで（「昨日できなかったこの部分が今日はできるようになったね」「先生が傍にいらなくても自分だけでできるようになってきたね」等），もっと挑戦してみようという気持ちを高めたり，挑戦し続ければ成果はあらわれてくるということを感じたりすることができるようにする。 ・取組の様子をフィードバックする際は，時間や範囲を区切れば苦手なリコーダー練習にも取り組みやすくなるという事実もフィードバックし，自分の特性を意識できるようにする。	・キャッチフレーズをつくる際は，「ゴール」という言葉は入れて欲しいという教師の希望を伝えることで，内容のおおまかな方向性は示す。 ・苦手なリコーダー練習にも時間や練習範囲を区切ることで取り組めている事実を手がかりとして伝えたり，教師とのやりとりの中で出た言葉を積極的に認めたりして，最終的に「自分でつくったキャッチフレーズだ」と意識がもてるようにする。	指導の手立て (各教科等)	・1回でも取り組んできたときは，おおいに賞賛。 ・宿題に取り組めない日が連続したときは，どうすれば取り組みやすくなるか，できる工夫はないかを，キャッチフレーズなどを参考に教師と一緒に考える機会を設定。 ・5回取り組むという目標(ゴール)を教師と共有。5回という目標を達成するたび，シールを表に貼り，本児の頑張りの積み重ね可視化。
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)			指導の実践
評価	<通常の学級での様子>			
		実践開始前（1学期）	実践開始後（2学期）	
	・[漢字の宿題] 5回連続取り組めた回数	0回（1回もできなかった）	11回	
	・[音楽のリコーダー練習]遊ぶことなく毎回取り組めるようになった（リコーダーを分解して遊ぶことは皆無になった）。熱心に練習し，音楽発表会の課題曲「レッツゴーソーレ」が吹けるようになった。			
	・担任は「難しい課題はさじを投げてしまうこともあるが，やり方を説明することで少しずつ取り組めるようになった。以前より粘り強くなっている。」と評価している。			
評価	<自立活動の様子>			
	・[リコーダー練習]一人でタイマーを「5分」にセットし，自分から進んで練習をやりたいというようになってきた。運指図を参考にしながら，自分でできないところを確認しながら繰り返し練習していた。教師が傍についていなくても，主体的に練習することができた。			
	・[キャッチフレーズ作成]教師とやり取りをしながら短冊に思いついた言葉を書き，本人に選ばせ，「楽しいぞ ゴールめざして がんばるぞ」というキャッチフレーズを作った。本児も，自分で作ったキャッチフレーズだと意識していた。それを本人に言ったり，掲示したりして本人に浸透させた。			
次計画へ反映	・時間や範囲を区切れば取り組みやすくなるということを生かして，本人が面倒さを感じて逃避しがちな学習（例えば作文等）にも自ら取り組めるようにする。			

1 題材名 ゴールを見つけて進んで取り組もう

2 題材の個別目標

- ・自身の得意なことや不得意なことを知り，ゴールを意識して活動することができる。【心(3)，環(2)】

3 指導計画（1時間扱い：リコーダー練習および教科の内容を取り扱った自立活動）

45 分間の配分のみ安	学習内容・活動
25 分間	・ キャッチフレーズをつくる
15 分間	(教科の内容を取り扱った自立活動)
5 分間	・ リコーダー練習をする

4 本時の個別目標

- ・自分が学習するときの励みとなる，自分の得意なことが表現されたキャッチフレーズを教師と一緒に作ることができる。【心(3)，環(2)】

5 準備物・資料 短冊，決まった言葉を書く用紙，リコーダー，楽譜

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
1 はじめのあいさつをする。	・ 姿勢を正しくしていることや，元気に挨拶ができることを賞賛する。
2 本時の活動を知る。 ・ キャッチフレーズ ・ 算数 ・ リコーダー	・ 学習内容を黒板に示すことで，学習の見通しがもてるようにする。 ・ やる気が出てくる合言葉を一緒に考えることを伝える。
3 キャッチフレーズをつくる。 (1)課題を把握し課題設定の理由を理解す	・ キャッチフレーズについて簡単に説明し，学習内容が確実に捉えられるようにする。

る。

かだい キャッチフレーズを作ろう。
ーやる気のことはスイッチー

(2)大事な言葉を選ぶ。

(3)キャッチフレーズを作る。

(4 算数の内容を取り扱った自立活動)

5 5分間リコーダーの練習をする。

6 本時の学習を振り返る。

・感想を発表する。

7 おわりのあいさつをする。

・ 1学期に学習した俳句の文字数を思い出せるような言葉かけをし、キャッチフレーズの型を示すことで、安心して学習に取り組めるようにする。

・ リコーダー練習等、ゴール（活動の終わり）が分かると、これまで取り組みづかったことにも取り組めてきたことを振り返りながら、いつでもそのことを思い出せるようなキャッチフレーズを作ることを伝える。

・ キーワードを何個か挙げさせる。その中に「ゴール」という言葉を入れるように意図的に話し合っていく。

・ 作ったキャッチフレーズをこれからの学習の時に唱えるよう助言する。

◎自分の得意なことが表現されたキャッチフレーズを教師と一緒に作っている。【心(3), 環(2)】

・ 児童自身でリコーダーやタイマー等を準備できる環境を整えながら、教師はできるだけ見守り、主体的に練習する姿勢を引き出す。

・ 上達の様子を具体的にフィードバックすることで、前向きな気持ちを引き出す。

・ 練習に頑張っていることをフィードバックする際は、時間と範囲が明確だと取り組みやすくなるということを本人が意識できるように言葉かけをする。

・ 再度作ったキャッチフレーズを唱え、大切な言葉であることを確認する。

・ 学習の良かったところを賞賛する。



苦手なことに取り組もうとしないC子（小3：LD,ADHD 通級指導教室）

実態把握

・通常の学級に在籍。週3時間,通級指導教室に通って学習。

【通級指導担当者の見取り】

- a.文字のバランスがとりにくく、書くことが苦手で乱雑である。
- b.漢字を正確に覚えることが苦手で、誤った文字を書くことが多い。
- c.自信がもてず、失敗することをおそれている。
- d.自分の思いを人に伝えることが苦手である。

【保護者からの情報】

- e.苦手なことはやろうとしない。

【通常の学級の担任からの情報】

- f.集中できる時間が短く、手いたずらをしていることがある。
- g.自信がなく、自分の苦手なことに取り組もうとしない。
- h.かんしゃくを起こし、教室から出ていってしまうことがある。
- i.授業中の姿勢が悪くなることが多い。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	c,f		a,g	a,h	d

【3年後の姿】

苦手なことや初めてのことで、自分なりの取り組み方を模索し、取り組もうとする。
困ったことや苦手なことがあった時に、自分の言葉で助けを求められる。

指導すべき課題

C子は,経験したことのないことには,不安感が強い。また、周りの目を意識しすぎるところがあり、失敗を恐れ、自分が苦手なことは避ける傾向にある。C子に必要なのは、達成感を味わうこと、自信をもつこと、困難にぶつかったときの対処の方法を身につけること、できない自分も認められることであると考え。C子の苦手さの1つに、漢字の読み書きがある。漢字を正確に覚えることが難しく、文字も乱雑になりがちで、見返すと自分でも読めないことがある。また,板書量が多いと視写しないことがある。グループ学習においては、書いてあることを理解してもらえないことや漢字の間違いを指摘されることがあり,書くことに対して自信がない。縄跳びや跳び箱など器具を使った運動やリコーダーの演奏などが苦手で、授業に参加せずに見ていたり、その場からいなくなったりすることがある。通級指導教室での学習においては、C子が通常の学級で自信をもち、安心して授業に参加できるような指導をしていきたい。

長期目標

自分ができそうにないことや苦手なことを教師に伝え、予め練習することで、授業に参加することができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(3)困難の改善・克服する意欲 苦手なことにも取り組もうとする意欲の向上	(2)自己の理解と行動の調整 自分の得意・不得意の理解	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応 視覚認知力の向上	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行 巧緻性の向上	(2)言語の受容と表出 自分の気持ちの伝達
指導内容	文字をよく見て、形を整えて書く。	苦手な運動の練習を行うことで,不安を解消し,自信をもつ。		困ったことや苦手なことがあったときに、自分の気持ちを言葉で伝える。	

短期目標 (自立活動)	限られた範囲において、文字を正しく、形を整えて書くことができる。【心(3), 環(2)】	体育の授業に参加できるように、縄跳びの練習を行うことができる。【心(3), 身(5)】	どうしてもできないときは、担任にできないことを言葉で伝えることができる。【コ(2), 人(2)】	個別目標 (各教科等)	- 自分が読める文字で正しく視写できる。(国語) - 苦手な運動にも取り組める。(体育)
指導の手立て (自立活動)	- 眼のトレーニングを取り入れる。 - 書き始めの一画目だけを書いたり、一画目の始まりの位置に点を付けたりして文字の位置を意識させる。 - 細かい所まで見るために一画抜いた漢字の間違い探しを行ったり、自分の書いた漢字と正しい漢字を見比べたりする。	体育で行う運動の見通しをもたせ、縄跳びの跳び方や手首の回し方などを確認し、事前に練習する。	カードなどの視覚的な教材を使いながら、困ったことや苦手なことがあったときの振り返りを、教師と一緒にやる。	指導の手立て (各教科等)	- 指示された部分を、正しい文字で視写できたら賞賛し、シールを貼る。(国語) - 苦手な運動に取り組めたら頑張りカードにシールを貼る。(体育)
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)			指導の実践	
評価	<通常の学級での様子> 実践開始前 実践開始後 - 自分から板書を視写する割合 2割 8割 [体育]事前に練習に取り組んだ運動には8割参加することができた。 [音楽]リコーダーの練習をしなかった音楽には、2割しか参加することができなかった。 <自立活動の様子> - 文字の中心を意識するようになった。 - 担任に気持ちを伝えることができるようになってきて、かんしゃくを起こしたり、苛立ったりすることが、週3回から月1回と減った。 - 縄跳びの交差飛びが、2回ほど飛べるようになった。 ・集中して学習に取り組める時間の平均 実践開始前 実践開始後 5分 25分				
次計画へ反映	- 気持ちをコントロールする方法を知り、その方法を身に付けて授業に参加することができる。 - リコーダーの練習をするなど、苦手なことを事前に練習をすることにより、安心して授業に臨めるようにする。 - 眼のトレーニング、間違い探し、漢字を分けた漢字パズルを継続して練習する。				

1 題材名 よく見て書こう・よく見てやろう

2 題材の個別目標

- ・漢字を細かいところまで見て、画の長さや方向に気をつけて漢字を書くことができる。【心(3)、環(2)】
- ・縄跳びの前交差跳びを1回跳ぶことができる。【身(5)】

3 指導計画（3時間扱い）

第1時「眼を動かそう・漢字を詳しく見よう・交差跳びをしよう」

第2時「眼を動かそう・漢字をよく見てマスの中（始点入り）に書こう・交差跳びをしよう」（本時）

第3時「眼を動かそう・漢字をよく見てマスの中（始点無し）に書こう・交差跳びをしよう」

4 本時の個別目標

- ・曲に合わせて、指示通りに眼を動かすことができる。【環(2)】
- ・罫線の入った2cmのマスの中（始点入り）に、漢字を書くことができる。【心(3)】
- ・腕を交差にした状態から手首を回して縄を前に回すことができる。【身(5)】

5 準備物・資料 1～10まで書いたプリント、罫線入りのプリント、漢字クイズの紙（5文字×2種類）、漢字練習プリント、手作り投影機、頑張りカード、シール、掲示用キーワード、タブレット、写真、縄跳びの縄

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
1 学習の始まりの挨拶をし、本時の学習を知る。 ・目のたいそう ・漢字さがし ・ピッタリ漢字 ・交差跳びの練習	・背筋、指先を伸ばし、相手を見て挨拶をして、学習の始まりと姿勢を意識できるようにする。 ・本時の学習の流れを提示することで、見通しがもてるようにする。 ・前回の学習を想起させ、本時も前回と同じ流れで進むことを確認し、安心感をもたせる。 ・学習に対する想いを話すよう促す。自信が無い時は、前回できていたことを話し、自信をもって取り組めるようにする。また、気持ちを話すことができたならシールを貼り、想いを伝えることができたことを視覚化する。
2 学習計画に沿って学習を進める。 (1)眼の体操をする。	・不安があると思われるので、初めは「かたつむり」の曲に合わせて指

- ・曲に合わせて眼を動かす。
- ・数字を順に追う。
- ・線をなぞる。

(2)よく見て漢字を探す。

- ・多くの漢字の中から指定の漢字を見つける。
- ・誤りの部分を説明する。

(3)よく見て漢字を書く。

キーワード
どのマス,どこから,どちら向き?
どこまで進む?

(4)交差跳びの縄を回す練習をする。

キーワード 手はおへその前

3 本時の学習を振り返る。

だけ動かす練習をし、その後、曲に合わせて眼のウォーミングアップをできるようにする。

- ・指の動きに戸惑う時は、対面で指示したり、背面で手を取り、動かしたりするなどの支援をする。
- ・1 から 10 までの数字を順に出しながら眼で追うことができるようにし、その後、順に指でタッチするよう促す。その際、数字に指が触れているか確認する。
- ・線を指でなぞる際、頭を動かさないように声をかける。

◎教師の支援のもと、指示通り眼だけ動かしている。(観察)

- ・問題を話し、聴き取ることができたか復唱させてから問題に取り組ませるようにする。
- ・解決したら課題の枚数分シールを貼ることを確認し、意欲付けを図る。
- ・漢字の間違えている部分を言葉で説明させるようにする。その際、漢字の読み方を確認する。

◎多くの漢字の中から、指定された漢字を見つけることができている。
(プリント)

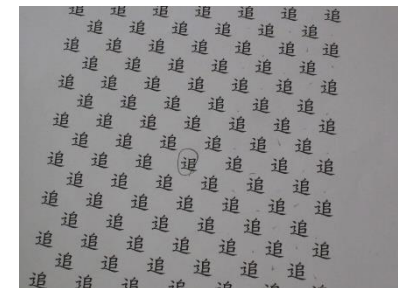
- ・どんな点に気をつけて書くといいかキーワードで確認する。
- ・漢字をパーツで見ることができるようにお手本の漢字は色分けする。
- ・納得する漢字が書けたら、自分の書いた漢字とお手本を重ね合わせ、出来具合を見ることができるようにする。

◎罫線の入った2 c mのマスの中に漢字を書いている。(始点を入れる)
(プリント)

- ・縄跳びの柄の持ち方と、写真とキーワードを掲示して手を交差する位置を確認する。
- ・縄がよく回っている動画を見せ、手首を回すと良いことに気付くようにする。

◎腕を交差した状態で手首を回し、縄を前に回している。(観察)

- ・今日の頑張りポイントを計算させ、カードと交換して、次時への意欲を高めたい。



学習参加への意欲がもてない D 男（小5：LD,ADHD 通級指導教室）

実態把握

・通常の学級に在籍。週3時間、通級指導教室に通って学習。

【通級指導担当者の見取り】

- a. 平仮名が並ぶと、言葉をまとまりで読むことができない。
- b. 漢字は読めないものが多いが、フリガナをふると読もうとする。
- c. 文字の書き順が一定でない。

【保護者からの情報】

- d. 学習に対する意欲が低く、宿題なども取り組もうとしない。

【通常の学級の担任からの情報】

- e. 話を聞いても忘れたり、理解できなかったりするので、話し合いへの参加意欲が低い。
- f. 集中力が短く、手遊びをしてしまう。
- g. 書く量が多いとノートをとらないことがある。
- h. 友達と関わりをもとうとする。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	d,e,f,g	h	a, b,c		

【1年後の姿】

- ・苦手なこともあきらめずに取り組むことができる。
- ・苦手なことに直面したときに、自分なりの手段や方法を見つけて問題解決にあたることができる。

指導すべき課題

学習に集中する時間が短く、学習への意欲がもてないことを中心課題とした。その背景には、文字の読み書きに困難さや、話の内容を正確に聞き取れないこと等の認知の弱さにより、学習に意欲がもてず、「どうせできないからやらない」という意識が強い。そこで、通級の時間は、自信とやる気を失っている D 男に対して、読みや聞きの力を高め、「できた」「分かった」という体験を増やし、学習する喜びや楽しさを味わわせるようにする。D 男の苦手さに対しては自覚を促し、教師と一緒に改善に向けて取り組み、学ぶ意欲を高めていきたい。

長期目標

教師や友達から助言や支援を得ながら、学習に参加することができる。

自立活動指導内容

項目リストアップ		心理的な安定		環境の把握		
		(3)困難の改善・克服する意欲 苦手なことにも前向きに取り組もうとする意欲の向上		(2)感覚や認知の特性についての理解と対応 自己の聞く力、読む力に関する自己理解		
指導内容		目標をもち、教師と一緒に学習の手順を確認することで、成功体験を増やす。		一目読みや文節や単語に区切って音読する練習を行い、読もうとする意欲を高める。		

短期目標 (自立活動)	・「きくきくドリル」において8割の内容を聞き取ることができる。【心(3), 環(2)】	・平仮名の単語を1分間に36個読むことができる。【心(3), 環(2)】 ・教師の支援を受けながら,教科書に自分で区切り線を入れることができる。【心(3), 環(2)】	個別目標 (各教科等)	・課題文に区切り線を入れて読むことができる。(国語)						
指導の手立て (自立活動)	・「きくきくドリル」を用いて,聞いて書き取ったり,聞いたことを記憶して書いたりする練習をする。	・平仮名の単語が2つ並んだカードを使って,2つの言葉に分ける練習をする。 ・拗音や促音は,手拍子などの動作を加えて読むようにする。 ・読めない漢字には,「ふりがなをつけてほしい」と言えるようにする。 ・教師と一緒に確認しながら区切り線を入れる。一人で行う範囲を少しずつ広げるようにする。	指導の手立て (各教科等)	・課題文に自分で区切り線を入れた時には大いに賞賛する。 ・読めない漢字がある場合には,読み方を教えてもらうよう促す。						
指導の実践	(次ページ学習指導案参照)			指導の実践						
評価	<通常の学級での様子> ・[国語]文章の内容理解がスムーズになり,話し合い活動への参加に関しては,4割から7割へと伸びた。 <自立活動の様子> <table><tr><td>・1分間に読める平仮名单語</td><td>実践開始前</td><td>実践開始後</td></tr><tr><td></td><td>9個</td><td>45個</td></tr></table> ・文章を読む際の区切り線の入れ方が分かり,教師の声掛けによって課題に区切り線を入れて取り組むことができるようになった。 ・「きくきくドリル」において8割聞き取れるようになった。しかし,聞いたことを記憶して書くこと,必要な情報を聞き取れることはまだ3割である。				・1分間に読める平仮名单語	実践開始前	実践開始後		9個	45個
・1分間に読める平仮名单語	実践開始前	実践開始後								
	9個	45個								
次計画へ反映	読みの力を高め,学習に取り組むことができるようにする。 ・平仮名の単語が3つ並んだカードを3つの言葉に分ける練習をし,平仮名の単語を1分間に51個読むことができるようにする。 ・フラッシュカードを使って,3年生の漢字が読めるようにする。 ・「きくきくドリル」を使って,聞いたことを記憶して書くこと,必要な情報を聞き取れることが8割できるようにする。									

1 題材名 聞き取りゲームをしよう・読んでみよう

2 題材の個別目標

- ・ゲームやドリルで、聞き取りをしながらやりとりをすることができる。【心(3), 環(2)】
- ・国語の教科書に区切り線を入れて読むことができる。【心(3), 環(2)】

3 指導計画（3時間扱い）

第1時「聞き取りゲーム・単語を読もう」

第2時「聞き取りゲーム・単語に区切ろう」（本時）

第3時「聞き取りゲーム・単語に区切って読もう」

4 本時の個別目標

- ・「きくきくドリル」において8割聞き取ることができる。【環(2), 心(3)】
- ・3つの単語が並んだものに区切り線を入れることができる。（1分間に21の単語に分ける）
- ・国語の教科書に自分で区切り線を入れることができる。

15

5 準備物・資料 ゲームの説明用紙、「きくきくドリル」CD、プリント、平仮名单語カード、平仮名読み確認プリント、教科書拡大プリント

6 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価（◎評価）
1 学習の始まりの挨拶をし、本時の学習を知る。 ・聞き取りゲーム ・飛んだ飛んだゲーム ・きくきくドリル ・平仮名見つけ ・国語の教科書を読む	・相手を見て、姿勢を意識して挨拶ができるようにする。 ・本時の学習の流れを提示することで、見通しがもてるようにする。 ・前回の学習と同じ順序で進むことと、ゲームが変わることを確認する。

2 学習計画に沿って学習を進める。 (1)聞き取りゲームをする。 ・「飛んだ飛んだゲーム」 ・「きくきくドリル」 (2)平仮名の言葉をみつける。 ・清音の平仮名の単語を読む。 ・清音の単語が2つ並んだ言葉を読む。 ・清音以外の平仮名の単語を読む。 ・3つの単語が並んだ言葉を3つの単語に分ける。 ・絵に合った言葉を見つける。 (3)国語の教科書の文に区切り線を入れて読む。 3 本時の学習を振り返る。	・「飛んだ飛んだゲーム」の説明をして、ゲームの手順が分かったか確認する。 ・「飛んだ飛んだゲーム」の目標を連続して10回続けることとし、達成した場合は、飛んだ物を2つ言い、言った順番に答えるよう促す。 ・「きくきくドリル」を行った結果、合っていた問題の数だけシールを貼って賞賛する。間違えた場合は、「失敗は成功のもと」とし、次はイメージして聞くと良いことを話し、次につながるようにする。 ◎「きくきくドリル」において8割聞き取っている。(プリント) ・促音、拗音などを含む平仮名は比較的読める傾向にあるので、清音の平仮名の単語を読む練習を行う。 ・児童の実態に合わせて段階的にステップアップできるようにする。 ・読むことに戸惑った単語は、手拍子をしながら単語を言い、音と動作を一致させるようにする。 ・1分間に何文字読めるか、全部の問題が何分でできるか、どちらで時間を計るか児童が選択できるようにする。 ・課題を終えたら、頑張りシールを貼って賞賛する。 ◎3つの単語が並んだものを、1分間に21の単語に区切ることができる。(プリント) ・教科書を拡大したプリントの漢字に、予め鉛筆でルビを振っておくようし、読むことができる漢字のルビは消すようにする。 ・区切り線を入れる範囲は、自分で選択させるようにする。 ◎文章を単語に分けて区切り線を入れる方法を知り、自分で教科書に区切り線を入れて読んでいる。(教科書の拡大プリント) ・課題を終えたら、シールを貼って賞賛する。 ・学習の振り返りを自分の言葉で話すよう促し、頑張りを具体的に賞賛する。
--	--

